

第5回 私たちのひろば 記録(案)

2023年5月14日(日) 14:00~15:30 くらい

司会: 本多依子副会長

記録: 廣島規子会計

参加数: 役員含め 18名 (3 サテライト)

1. 開会挨拶 司会

2. 祈り 司会

3. 自己紹介タイム

金沢教会サテライト (5人)

- ・田口さん コロナで女性連合の活動を目にすることが少なかったが、今日は学ばせてもらいたい。
- ・森岡さん 教会では教育担当執事
- ・あいかわさん 無牧師の中で伝道執事
- ・ちょうしさん みなさんとお交わりが出来たらいいな
- ・もといさん 定例女性会の後で、ひろばに参加した。

函館教会サテライト (3人)

- ・樋浦さん 教会では執事さん
- ・笹島さん 女性会会長で初参加
- ・山田さん よろしくおねがいます。

相模中央教会 (1人)

- ・藤岡さん タベ世の光を読んで、今日のひろばを知って参加。

三鷹教会 (1人)

- ・五島さん 女性連合会計事務担当。尊いお祈りと捧げものにささえられている。

東京北教会サテライト (3人)

- ・宮さん 女性大会を楽しみにしている。
- ・古田さん 東京北は地域共働はみんなの祈りを受ける教会。ともに祈りあうのは素晴らしいこと。それが世界伝道に繋がって行くと思う。
- ・山口さん 皆さんの意見を聞いて、これからの女性連合のことを考えたい。

浦和(1人)

- ・廣島 課題が大きすぎて迷子になっているが、きょうのひろばでの分かち合いを受けて、新たな歩み出しをしたい。

・米澤さん（1人）

綾瀬小園（1人）

・岩瀬さん

・米本幹事 課題ばかりがのしかかって来て、行き詰っていたが、ファシリテーターが与えられ、歩み出しを新たにしたところ。ひろばで知り合って繋がり合って、一緒に考えていきたい。

4. 発題 本多副会長

コロナの期間、それぞれの教会は礼拝を守るのが精一杯で、女性会もままならなかったと思う。

情報共有の難しさも大いにあった。機構改革をしなければならないことを知らない女性たちも、多かったと思う。

女性連合役員会も、全国の女性たちの声に充分耳を傾けることが出来ないまま、機構改革にとつにゆうしていた。昨年から開催されたこのひろばでも、女性連合が抱えている課題を説明するのが精一杯で、皆さんの意見を伺ったり、豊かな対話を導くことはできていなかった。機構改革の蓋を開けてみたら、大変なことが山積みだった。組織体制、財政問題、少子高齢化、今後の担い手のこと、世界祈禱週間献金のことなど、何から手を付けて良いのか分からないほどだった。が、竹之内さんというファシリテーターが与えられて、役員会だけでなく、全国の女性たちとつながり、語り合う中から生まれる vision を共有することで、機構改革を具体化していくことが出来ると、気づきを与えられた。私たちがこれからやっていきたいこと=vision とはいったいどんなこと？昨日のひろばでとても分かりやすい説明があたえられた。それはトヨタ自動車のステートメント。

私たちは幸せを量産する。

だから、人の幸せについて深く考える。

だから、より良いものをより安くつくる。

だから、1秒1円にこだわる。

だから、くふうと努力を惜しまない。

だから、常識と過去にとらわれない。

だから、この仕事は限りなくひろがっていく。

vision とはなにか？このトヨタ自動車の vision を聞いて、時代が変わっても普遍的で広がっていく可能性があると感じた。分かりやすい言葉で共有出来て、共感できるもの。決して利己的ではなく、他社を尊重して人を生かす。Vision とはそういうものと思う。

また世の光 5月号に米本幹事が書いている、コンパッションという言葉に注目したい。コンパッションとは自分や他者の苦しみに対する感受性であり、苦しみを軽減し、未然に防ぐように力を尽くすこと。それは他者に向け他者から受け取り、自分自身に向けるものである。コンパッションとは、他人の苦しみを自分の苦しみのように感じる。はらわたがちぎれるような思いを表す「ちむぐりさ」の言葉と似ている。

イエスさまは、はらわたがちぎれるような思いで私たちを愛してくださった。そのイエスの愛に倣う物として、私たち女性連合はどのようなことができるのでしょうか？

日本でも世界でも「女性」ということで虐げられている方々がいる。その方々が救いと霊的開放を得るために、どのようなことが出来るのか？を一緒に考えて頂けたらと思う。これからお話しする二つの問を、コンパッションやちむぐりさの視点をもって、共に考え分かち合う時間を持ちたいと思う。

問1 女性連合がこれからどのような vision をもって、どんなことをしていきたいのか？ また女性連合にどのようなことを期待するのか。

問2 私たちの教会や地方連合から、こんなことをしてみたいことがある？

5. 語り合い報告

- ・ 女性連合が全国女性会のまとめ役として、あり続けてほしい。一つの教会ではできないことを、取りまとめてほしい。女性連合に対するイメージは、新参者が入りにくいところ。一人で参加する人の居場所がある総会にしてほしい。後継者育成は、組織を後継するのではなく、信仰を後継してほしい。近隣の地方連合集会があれば、参加しやすいのではないかな？

- ・ 今、何故理念をいじる必要があるのか分からない。女性連合ステートメントの理念・抑圧・使命の中身が分からない。みんなが共感できるシンプルな言い方はないのか？具体的なようで、ざっくりしたものになっている。

世の光の減冊、会員数の減少の原因について、ちゃんと分析はできているのか？

少子高齢化で後継者がすくなくなっていくとしても、女性連合の理念が変わるものなのか？

理念が変わるとすれば、少子高齢化ではなく、社会の変化によって変わるものではないか？

今まで女性連合が活動してきたこの理念この目標に関して、どのように考え変えて行ったのか？その過程を伝えてもらえれば、私たち全国の会員も、理念を変えることを具体的に考える助けになると思う。

- ・ 幹事 なぜ今機構改革なのか？少子高齢化だけでなく、経済も含め停滞している社会の中で、変わっていかないといけないことがある。性で分けて活動する時代ではもはやなくなっていることから、大事なことを残しつつも理念を見直す必要がある。この朱字部分は、依子さんの録音からひろったものです。

- ・ 幹事 トヨタのような分かりやすいステートメントがあればよいが、このような場で皆さんからいただいた意見を持って、改めて vision を作っていききたいと思う。

- ・ 函館教会の女性会は、日々のみ言葉に触れて繋がり合うことを大事にしているが、女性連合の働きが何かを考えると、具体的によく分からない。目指していることが分からない。課題をストレートに言ってほしい。よく言われる財政問題とはお金がないということなのか？と問われた。これまで発信されてきた、世の光の年間 100 冊の減冊、高齢化と若い方の加入が少ないことによる会員数の減少による会計の危機の話を見せてもらった。この一年間、役員会や検討チームでの話し合いが、課題の大きさのために、先を急ぎ混迷していたことを認めた。その上で改めて、私たち女性連合のこれからの、もう一度考

え始める時なのではないか。そのために、全国の女性たちの意見を伺い、共有することが必要であると話した。

- ・閉塞感・疲労感・焦り・重かったことをじかに感じた。行き詰まりもあるし、このような大きな課題を役員会に背負わせて良いのか？どこにどうしたいのか？がないと心の持って生きようがないと思った。コンパッションが女性連合の合言葉になっていくのかな？
女性会とは結婚した人がいっぱい団体みたい。独身者が入りにくかったが、これからはいろいろな立場の女性が入れる場になってほしい。これは話し合いの中での発言です。

- ・幹事 何を行き詰っているかを共有していく。役員会の側だけが一方的に提案するのではなく、全国のみなさんと意見を出し合って、一緒に作り上げていくことの大切さを改めて思わされている。今年度は総会で協議をすることになる。現実を見つつ、希望を語り合いたい。女性連合はあり続けてほしいと言っていたことが本当に嬉しかった。

- ・ひろばの持ち方について、話し合うことのテーマをあらかじめシェアしてもらいたい。

- ・幹事 ひろばが女性会例会が持てない教会の、代わりの場になってほしい。

6. 閉会の祈り 岩瀬（綾瀬小園）

次回 7月8日（土）・9日（日）